

泌尿紀要
Acta Urol. Jap.



Vol. 27, No. 10 ACTA UROLOGICA JAPONICA October 1981

泌尿器科紀要

第27巻 第10号 1981年10月

Testosterone 投与後の“はねかえり現象”に関する実験的研究	
—特に辜丸組織内 Testosterone 濃度について—	藤井 光正…1171
ヌードマウス移植ヒト泌尿生殖器腫瘍のヌードラットへの移植	秋元 成太・ほか…1179
腎癌症例における腎動・静脈血の血清の血清蛋白と腫瘍マーカーの検討	久住 治男・ほか…1185
泌尿器科診療におけるコンピューター利用に関する研究	
—第1報：コンピューター導入の計画—	今川 章夫・詫間 幸弘…1195
腎腫瘤穿刺造影診断	日台 英雄・ほか…1199
腎杯憩室：11症例の臨床的検討	堀 夏樹・ほか…1211
経皮の大腿動脈造影法の合併症	三浦 猛・里見 佳昭…1219
腎平滑筋肉腫の1例—術前の放射線療法が有効であったと考えられた1切除例—	
	高橋 忠久・ほか…1223
前立腺横紋筋肉腫の1例	楠美 康夫・ほか…1231
精管皮膚尿瘻症例	辻橋 宏典・ほか…1237
尿路分離菌とその薬剤感受性	
—東京都立駒込病院における4年間の臨床統計—	三方 律治・木下 健二…1243
ホスミンSの基礎的臨床的検討	岡田 敬司・ほか…1251
尿路感染症における Melysin® の臨床効果とdisk 成績の関連性について	
	長船 匡男・ほか…1265
男子急性淋菌性尿道炎に対する SPECTINOMYCIN (TROBICIN) の使用経験	
	斎藤 薫・ほか…1271
血液透析時に使用するヘパリンカルシウムの抗凝固能に関する検討	
	土田 正義・ほか…1277
前立腺肥大症に対する CHLORMADINONE ACETATE (CMA) の効果	
	上田 正山・町田 豊平…1287
—第4回泌尿器がん化学療法研究会学術集会—	
ホルモン非依存性前立腺癌の治療	塩見 努・ほか…1291
抗男性ホルモン療法に再燃した前立腺癌	
—進行例に対する多剤併用療法の経験—	宮川美栄子・ほか…1297
ホルモン非依存性前立腺癌5例の治療経験	都田 慶一・ほか…1303
ホルモン抵抗性前立腺癌の治療	藤井 昭男・ほか…1309
前立腺低分化腺癌の治療成績	黒田 昌男・ほか…1317
進行性前立腺癌の化学療法	本多 靖明・ほか…1323
前立腺癌の治療—抗男性ホルモン療法に抵抗した症例—	
	小林 収…1329
ホルモン非依存性前立腺癌の治療	
—化学療法に関するまとめ—	岡田謙一郎・小幡 浩司…1331

Editor: Prof. Osamu YOSHIDA, M.D.

Department of Urology, Faculty of Medicine,
Kyoto University, Kyoto Japan 606
京都大学医学部泌尿器科学教室

禁帯出

到着後1ヶ月間

編集後記

いつであったか、プロ野球の野村選手と王選手が対談でつぎのようなことをいっていた。

「こいつは素晴らしい素質がある。きっと一流選手になるに違いないと思って期待しているが、いっこうに芽が出ない若手がいる。それは自分自身の努力が足りないのが第一の原因だが、先輩の中で折角はりきっているのに“そんなに練習してもしょうがないぞ”とか“そんなにやっても先がみえてるのに、もっと人生楽しんだらどうや”とかいって、若手のやる気を失わせてしまうのがある。チームにとって、これは大きなマイナスだ……」

医学界にも毎年よい素質をもった若い医師が誕生する。これを延ばし育てるには、この対談にてくるような先輩がいてもらっては困る。またかつて、京大前総長岡本道雄先生が、「今の学生に必要なのはやさしい母親の愛情ではなく厳しい父親の愛情である」といったことがある。若手医師の教育にはこの心構えであってほしいものである。(O. Y.)

購読要項 (1981年1月改定)

1. 発行は毎月、年12回とし、年間購読者を会員とする。
2. 会員は年間予約購読料5,000円(送料とも)を前納する。払込みは振替に限る。口座番号 京都4772番 泌尿器科紀要編集部宛。
3. 入会は氏名(フリガナ)、住所(雑誌郵送先)、勤務先を記入のうえ編集部あて、はがきにて申し込む。

投稿規定 (1981年1月改定)

1. 投稿：連名者を含めて会員に限る。
2. 原稿：泌尿器科学領域の全般にわたり総説、原著、症例報告、その他で和文または英文とする。
 - (1) 長さは制限しないが簡潔にする。
 - (2) 和文原稿はB5版400字詰原稿用紙横書き、楷書、当用漢字、現代かなづかい、平がなし、清書する。文中欧語の固有名詞は大文字で、普通名詞は小文字で始め、タイプし、年号は西暦とする。
 - (i) 原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名の順に和文、英文で併記する。下段に筆頭著者名(山田：または山田・ほか：)と、2語(例：前立腺がん・PSAP)からなる running title および5語(英文)以内の key words を付す。
 - (ii) 英文抄録：ダブルスペースでタイプし、その和訳をつける。
 - (3) 英文原稿はダブルスペースでタイプし、原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名、key words(和文に準ず)、running title(和文に準ず)の順にタイプし、別に標題、著者名、所属機関名、抄録の順に記した和文抄録を付す。
 - (4) 数字はすべて算用数字を使用し、単位は m, cm, mm, l, ml, kg, g, mg, μ g, %, $^{\circ}$ C, pH などとする。

(5) 図、表、写真などはすべて別紙とし、写真はトリミングする。説明は和文、英文を問わず Table 1., Fig. 2. などとし、なるべく英文とする。原稿右欄外に挿入さるべき位置を明示する。とくに図・表は必ずタイプまたは楷書で清書し、誤りのないことを確認する。様式については本誌の図・表を参照する。

(6) 引用文献は必要最小限にとどめ、引用個所を本文中に入れる。和文は楷書で、欧文はタイプする(例：山田^{1,3,7)}、田中ら^{1,3-10)}によると)。

雑誌の場合—著者名(全員)：題名、雑誌名、巻：最初頁～最終頁、発行年。

単行本の場合—著者名(全員)：題名、書名、編集者名、版数、巻数、引用頁、発行所、出版地、発行年。

(7) 原稿は書留で〒606 京都市左京区聖護院川原町54 京大病院泌尿器科紀要編集部宛送付する。

(8) 校正は初校を著者による責任校正とし、再校以降は編集部が行なう。著者複数の場合校正責任者を投稿時指定する。

(9) 編集部は原稿の訂正、書き直しまたは返却を指定する権限を保持する。

3. 掲載

(1) 論文の掲載は採用順とする。迅速掲載には迅速掲載料を要する。

(2) 紙代、印刷費および最初1頁の組版費は編集部で負担する。残額を実費負担とし、請求は論文掲載誌発行後に行なう。

(3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療器具の使用などにかんする研究論文については、掲載料を別途に申し受ける。

4. 別刷

実費負担とし、著者校正時に部数を指定する。

編集委員：石神 襄次 前川 正信
園田 孝夫 友吉 唯夫

宮崎 重 新谷 浩
桐山 奮夫(副主幹) 吉田 修(主幹)

泌尿器科紀要 第27巻 第10号 1981年10月25日 印刷 1981年10月31日 発行
創刊 稲田 務 顧問 加藤 篤二

発行 吉田 修

発行所 泌尿器科紀要編集部

〒606 京都市左京区聖護院川原町54 京都大学医学部泌尿器科学教室内 電話(075)751-3327(直通)
印刷所 山代印刷株式会社 京都市上京区寺之内通小川西入